

(第一課題)

カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察

(株)富士総合研究所 勝又 太郎*

1. 研究の目的

本調査は、カナダの首都オタワの東の郊外にあるオーリンズ市街地の形成経過について調査するとともに、計画されている雇用を生む団地の成否を調べ、この市街地の自立性に就いて考察する。

2. 調査対象地域の概要

カナダは、イギリス系とフランス系の民族抗争を通じて建国された歴史的経緯から、民族の融合が国家政策上の一つの大きな重要課題となっている。1867年に首都をフランス系民族が大多数を占めるケベック州とイギリス系民族が大多数を占めるオンタリオ州の州境のオタワに移転したことから、こうしたお国事情を鑑みることができる。

また、カナダの産業の大部分がその豊かな自然資源に立脚したものであることやアングロ・アメリカ民族特有の田園への憧憬等から、環境保全という視点が政策形成上、極めて大きなウェイトを占める。これは都市開発や市街地開発でも重視されており、カナダの都市計画や地域計画では、都市・地域の無秩序な拡大の抑制や自立性の確保が問題とされる。

しかしながら、20世紀後半の首都オタワの発展は、当時の首都建設計画を大きく上回り、首都の圏域は4,660 km²にまで及んでいる。首都の発展により、元来、首都の過度な拡大を防止する目的で整備されたグリーンベルトを超え、その周辺に多くの都市や市街地が開発されることになった。また、新都の建設が急激かつ大規模であったことから、その首都圏における就業構造が、首都機能に付随した雇用に著しく傾斜している。

こうした結果、首都オタワ市の周辺部に開発された多くの市街地は、環境保全と自立性の確保を指向しながらも、オタワ市に立地す

る首都機能に付随した雇用への依存度を高めるといった共通した特徴を持つに至った。

調査対象地域であるオーリンズ市街地も、そうした首都オタワを取り巻く郊外型市街地の一つである。

3. 研究の成果

現在まで、インターネットや各種文献(実際の計画書含む)等の二次資料を通じて調査を行ってきた。また、課題の市街地を含む自治体担当部局の職員とのメール交換及び電話でのヒアリングにより、現地の情勢を把握するよう努めてきた。

これらの結果、課題の市街地を取り巻くマクロ的な状況把握、市街地の歴史、及びグロスター市側の市街地開発計画について把握することができた。

4. 今後の課題

今後の調査は、主に以下の事項について実施する必要がある。

- ①カンバーランド市側の市街地開発計画
- ②市街地の発展経過(計画と要因を含めて)
- ③工業団地の概要
- ④工業団地と市街地との関係

①と③については引き続き文献の収集と分析に取組む必要がある。

しかし、②と④については、実際の現地における状況を確認し、かつ行政の市街地開発の担当部局や、実際の市街地の住民、さらには工業団地に関連する企業等の認識や動向等を把握する必要がある。

今後の予定としては、本年8月に現地調査を実施し、資料収集と同時に、ヒアリングについても実施したいと考えている。

* かつまた たろう ((株)富士総合研究所社会基盤研究部都市・地域セクション 研究員)